

## うるおい

政策分野	基本方針
1 環境	豊かな地球環境を未来へ引き継ぐために、地球温暖化対策、生物多様性保全、ごみ減量等の課題に対し市民、事業者、地域団体、行政等、オール京都で、これまでの延長にとどまらない取組を実践し、2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」等の目標達成に向け、環境と調和した持続可能な社会の実現をめざす。
2 人権・男女共同参画	少子高齢化や国際化、情報化、経済・雇用環境の変化が進むなか、多様な考え方や生き方が迎え入れられ、個性と能力を十分に発揮でき、日々の交流のなかからひとりひとりが尊重され、より豊かな人間関係が育まれるだれひとり取り残さない共生社会をめざす。
3 市民生活とコミュニティ	自治会・町内会などの地域団体をはじめ、地域企業、市民活動団体等が地域のさまざまな課題に対して、連携して解決に取り組むとともに、地域におけるさまざまな居場所や活躍の場づくりなどを進め、これを行政が支えることで、多様な地域コミュニティの活性化に向けたまちづくりを進める。
4 市民生活の安全	京都がもつ地域力を生かし、地域住民をはじめあらゆる関係機関と一層連携を深めることにより、犯罪、交通事故、消費者被害・契約トラブルを予防し、被害拡大防止のために対応するとともに、被害に遭わないようよりよい防犯環境へと発展させていく。 また、市民が地域における防犯活動・交通安全運動などの活動に積極的に参加し、取組の輪を大きくすることができるような施策を展開することで、すべてのひとが安心して安全に暮らすよりよい地域共生社会を実現する。
5 文化	市民の生活に息づくくらしの文化や、伝統文化から現代芸術まで幅広い文化、有形無形の文化遺産をはじめとする多様な文化を維持、継承、活用しつつ、創造的に発展させていくため、持続可能な文化施策を展開する。また、文化とあらゆる政策の融合を推進し、そこから生まれる新たな価値が相乗効果を生み、文化芸術が経済や社会の発展を牽引する「地方創生のモデル都市」となるとともに、新・文化庁と連携し、日本の文化 GDP の拡大や「文化芸術立国」に貢献する。
6 スポーツ	「だれもが、いつでも、どこでも、する・みる・支える、さまざまなかたちでスポーツやレクリエーションに親しみ、その環境をみんなで支え合うまちづくり」を市民、関係団体等と行政とが一体となって進める。人生100年時代を見据え、市民ひとりひとりがスポーツを楽しむことで、健康や心の豊かさを享受するとともに、多様な仲間とつながる取組を推進する。スポーツと文化、産業、観光、環境、教育などがつながることで、京都のまちをさまざまな分野からより魅力あるものにする。

## 活性化

政策分野	基本方針
7 産業・商業	京都のまちに息づく伝統文化とそれを支える匠のわざ、ひとびとの生活文化や美意識、さらには地域企業の優れた技術力、大学の集積といった京都の「強み」を生かすとともに、国内外からの起業家の呼び込みやクリエイティブな企業の進出によって、文化と経済の融合、異分野との交流による新たなイノベーションを加速し、次世代産業を生み出す産業創造都市をめざす。 また、地域コミュニティを支える地域企業の発展と担い手の確保や、伝統産業、商店街の振興、京都の豊かな食生活を支える流通体制の整備によって、持続可能な京都経済の好循環を生み出し、市民生活の豊かさにつなげていく。
8 観光	市民・観光客・事業者、そして未来にとってよりよいまちづくりを推進することによって、「持続可能で満足度の高い国際文化観光都市」を実現し、市民が温かく観光客を迎え入れ、市民と国内外からの観光客との交流が盛んなまちをめざす。そのために、地域の特性や意向に応じ、観光課題の解決をはじめ市民生活の安心安全、地域文化の継承を最重要視した市民生活と観光の調和に全力をあげて取り組む。 そして、引き続き観光の質を高めることで、市民、観光客、観光事業者の満足度を向上させるとともに、観光とMICEによる経済効果を京都経済全体に波及させ、市民生活の豊かさ、文化の継承・創造につなげる。
9 農林業	京都市の農林業は、市民に食料や木材を供給するとともに、食文化、文化財、伝統芸能や伝統産業等、京都のひとびとのくらしや文化を支える産業として発展してきた。二酸化炭素吸収源としての機能をはじめ、生物多様性の保全や美しい景観の形成等の多面的な機能を有する農地や森林が今後も適切に保全されるよう、産業としての魅力を高めて担い手を確保し、持続可能な農林業をめざす。 さらに、台風や集中豪雨等の自然災害の多発や環境の変化に対して高い対応能力を備えた農林業を推進し、市民生活の安全・安心の確保につなげる。 また、京都市の文化芸術の継承・発展を支える京都ならではの農林業の振興を図るとともに、市民が自然とふれあう機会を創出する。
10 大学	千年を超えて、都市の機能・文化が継承・発展しつつ、世界にも開かれた稀有な都市「京都」で学ぶ意義を再確認し、その魅力を高めるとともに、国内外に強力に発信することで、留学生、社会人を含む多様な学生を受け入れ、これからの社会の担い手を京都から輩出する。また、京都のすべての大学が個性・特色を生かしながら発展し続けられるよう、大学の取組を全面的にサポートするとともに、集積された大学の知・学生の力を最大限に生かした、産業・文化の創造・発展、地域の活性化をより一層進める。
11 国際	京都が世界に誇る歴史や伝統文化、産業、緑豊かな風土に加え、環境や景観等の先進的な取組など、京都の魅力を広く世界に発信するとともに、世界中から多種多様なひとびとを積極的に受け入れ、さまざまな交流を通して新しい価値を創造する世界の都市「KYOTO」をめざす。 また、あらゆる市民が外国文化への理解を深めることにより、異なる文化的背景や価値観等の多様性が生かされるまちづくりを推進する。

## すこやか

政策分野	基本方針
1 2 子ども・若者支援	妊娠前から子ども・若者までの切れ目ない支援をさらに推進するとともに、京都ならではの市民力・地域力・文化力を結集して市民の生き合う力を高め、子ども・若者が将来の展望をもって成長できるまちを実現する。
1 3 障害者福祉	障害のあるひとが、地域で自立した生活を営み、社会のさまざまな分野の活動に参加できるよう、障害者施策の総合的、分野横断的な展開を図る。これにより、障害のあるひともないひとも、すべてのひとが尊重し合い、地域社会のなかで、お互いに認め合い、支え合い、安心してくらするまちづくりを推進していく。
1 4 地域福祉	家族形態や雇用形態の変化など、社会経済情勢の変化を背景に、複雑化、多様化する地域の福祉的課題に対して、地域住民が主体となり、地域の関係機関との連携の下、課題を共有し、それぞれの強みを生かしながら解決につなげる協働の取組を推進する。また、地域だけでは対応が困難な複合的な課題を行政や専門支援機関等がしっかりと受け止め、分野横断的に支援を行う。これらの取組を通じて、世代や分野を超えて、すべてのひとや団体が、地域、くらし、生きがいをもつにつくり、高め合うことのできる地域共生社会の実現をめざす。
1 5 健康長寿	人生 100 年時代を見据え、京都ならではの地域やひととのつながりのなかで、市民が主役となって楽しみながら健康づくりに取り組むとともに、社会や地域全体で健康づくりに取り組んでいく環境づくりを進める。また、高齢期を迎えても介護予防に主体的に取り組む、働き手や地域活動の担い手として活躍できる環境づくりを推進する。さらに、支援が必要になっても、医療や介護をはじめとする多職種の専門職や関係機関、地域住民との協働による、医療・介護・生活支援サービスが切れ目なく提供される地域づくりを進める。
1 6 保健衛生・医療	市民が安心してくらする社会を実現するため、適切な医療サービスが受けられる体制を構築するとともに、感染症や食中毒等の健康危機事案が発生した際には、迅速かつ的確に対応できる体制を確立し、また、食品の安全や衛生的な生活環境を確保する。あわせて、ひとと動物とが共生できるうるおいのある豊かな社会を実現する。
1 7 学校教育	急速な社会の変化や AI の飛躍的な進化など、絶え間なく進む技術革新により将来予測が困難な時代と言われるなかにあっても「ひとりひとりの子どもたちを徹底的に大切にする」という京都市の教育理念の下、子どもたちが夢と希望をもって未来を切り拓いていけるよう、はぐくみ文化を基軸として、家庭・地域・大学・産業界・NPO などの参画を得ながら、市民ぐるみ・地域ぐるみで子どもたちの「生きる力」(確かな学力、豊かな心、健やかな体)を育む学校教育を推進する。
1 8 生涯学習	人生 100 年時代を見据え、豊かな人生の実現と生きがいをもつてくらする社会の創造の双方の観点から、京都ならではの市民力・地域力・文化力を結集し、子どもから高齢者、障害のあるひとなど、あらゆるひとびとの学びや文化芸術に親しむ機会を創出するとともに、それらを通して得た豊かな知識・技術・経験を生かすことができ、健康長寿にもつながる生涯学習のまちづくりに取り組む。

## まちづくり

政策分野	基本方針
1 9 危機管理・防災・減災	激甚化する自然災害はもとより、大規模停電、原子力災害、テロ災害、新たな感染症など、あらゆる危機から市民のいのち、くらしを守るため、市民、地域団体、事業者、行政等の多様な主体が相互に連携・協働するしくみをより強固にするとともに、より効果的な情報伝達体制の構築、避難体制の整備、地域防災力のさらなる充実強化により、都市のレジリエンスを向上させ、危機にしっかりと強く対応できるまちをめざす。
2 0 歩くまち	市民、事業者、行政の協働の下、「歩いて楽しいまちづくり」をより一層推進するとともに、持続可能な公共交通ネットワークを形成していくことで、市民や京都を訪れるひとびとが「出かけたくなる」魅力と活力あふれるまちとくらしを実現していく。
2 1 土地・空間利用と都市機能配置	人口減少社会の到来や少子高齢化の進展といったさまざまな社会経済情勢の変化を見通し、「保全・再生・創造」の都市づくりを基本としながら、多様な地域で受け継がれてきた伝統や文化、景観、産業や知恵などの資源や特性を生かして、まちの魅力や強みを守り、さらに高めていくための土地利用や都市機能の誘導を図ることで、市民の豊かなくらし・活動を支え、新たな価値を創造する持続可能な都市を構築する。
2 2 景観	京都の個性や魅力の源は、歴史や文化であり、そしてそれらを表象する美しい景観である。豊かな歴史的資産を保全・再生しつつ、時代に応じて新たな価値を創造することにより、新旧が融合した、多様性と重層性を備えた京都固有の景観を形成し、歴史都市・京都の魅力や価値を高め、50 年後、100 年後も京都が京都であり続けるため、市民と行政との協働により、時を超え光り輝く京都の景観づくりを推進していく。
2 3 建築物	だれもが安心してくらすことができ、充実した社会経済活動を展開できる、歴史都市・京都ならではの、しなやかに強く持続可能なまちの実現をめざし、市民と行政の役割分担と協働の下、市内の建築物を安心・安全で良質なものにしていく。また、市有建築物においては、これらに先導的に取り組むとともに、最適な維持管理の取組を進めていく。
2 4 住宅	市民、企業・事業者、行政が一体となって、京都がこれまで培ってきた環境、景観、コミュニティ、生活文化を大切にしながら、防災・減災、住宅セーフティネット(安全網)機能の充実を図ることにより、くらしやすく魅力のある、持続可能なすまい・まちづくりを推進していく。
2 5 道路と公園・緑	都市の活力やレジリエンスの向上に向けた道路整備と地球温暖化の防止や都市環境の向上、地域コミュニティの活性化等を図る公園整備・緑の創出を進めるとともに、膨大な数に上る社会資本について、市民協働の下、着実に維持管理を実施することで、安心・安全で持続可能な都市の発展を支える道と公園・緑を創造する。
2 6 消防・救急	安心して市民がくらし、観光客が訪れることのできる「安心都市・京都」をめざし、火災の発生を未然に防ぎ、市民のいのちと京都の町並みや文化財などを火災から守るとともに、あらゆる災害に迅速的確に対応する消防・救急体制を確保する。また、市民・地域団体、事業所、消防団、行政が一体となった防火・防災活動を推進し、地域防災力の充実強化を図る。
2 7 くらしの水	市民のいのちやくらしを支える重要なライフライン(生活に不可欠な施設)である上下水道は、河川とともに、都市の基盤施設であると同時に琵琶湖・淀川水系における水循環の一翼を担い、流域全体の水環境の保全に大きな役割を果たしている。安全・安心で良質な水道水を安定的に供給する水道、そして大雨による浸水被害を軽減し快適で衛生的な都市生活を支える下水道の整備を進めるとともに、近年多発している集中豪雨等からいのちとくらしを守り、水に親しむ空間を創出する河川整備を進めることなどにより、「くらしの水」を将来にわたって守り続けていく。